

学術フォーラム 自動車の自動運転の推進と社会的課題について

認知症の人と家族にとっての運転

2019年9月16日

日本赤十字看護大学 太田喜久子

認知症の人と自動車運転

- 認知症の人は、認知機能の低下によって、正しい判断ができにくくなり、自動車などを安全に運転することが困難に
- 自動車による行方不明
- 命にかかわる事故の加害者や被害者になる可能性あり
- 本人は「まだ大丈夫」と言っても、家族は「運転をやめさせたい」と運転免許の返納を促したり、鍵を取り上げるなどの実力行使を行わざるを得ない現実
- 運転をやめた後、
 - 仕事や買物、通院など日々の生活に支障
 - 社会活動への参加の機会が減り、家に閉じこもりがちになる

公益社団法人認知症の人と家族の会 「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査」報告

- 調査目的： 事故の予防や事故後の対応を調査
- 調査方法： 郵送法による質問紙調査
- 調査対象： 在宅で認知症の人を介護、行方不明や事故の経験
- 調査回答： 全国47支部940配布 回収549 回収率58.4%
- 回答期間： 2018年1月～2月
- 回答者： 配偶者、子、子の配偶者、その他親族など

調査対象 認知症の人

年齢： 70代多く、80代、60代ほぼ3割

診断名：アルツハイマー病 64%

利用していた移動手段：徒歩 64%

自動車 30%

自転車 14%

電車 6%

バス 5%

居住地：住宅密集地の平野 約2割

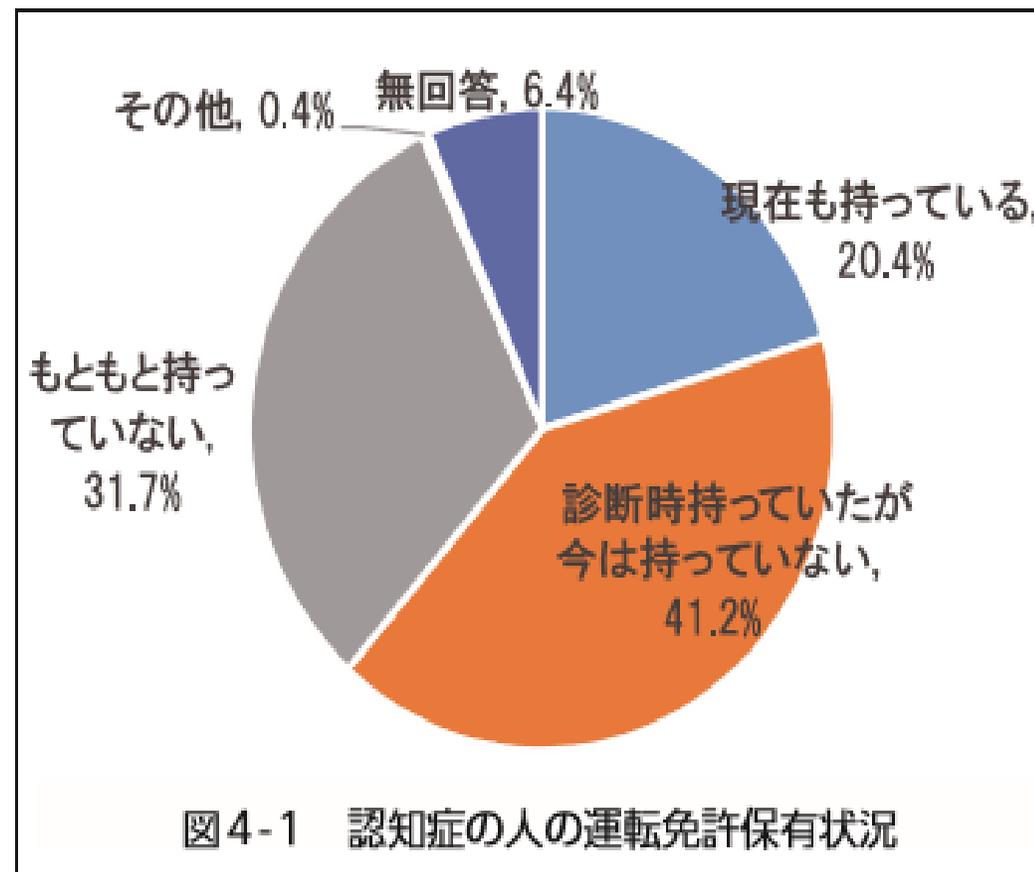
川や山が近い住宅密集地

山が近い山間部

川が近い田園地帯 等

表4-1 認知症の人の運転免許保有状況

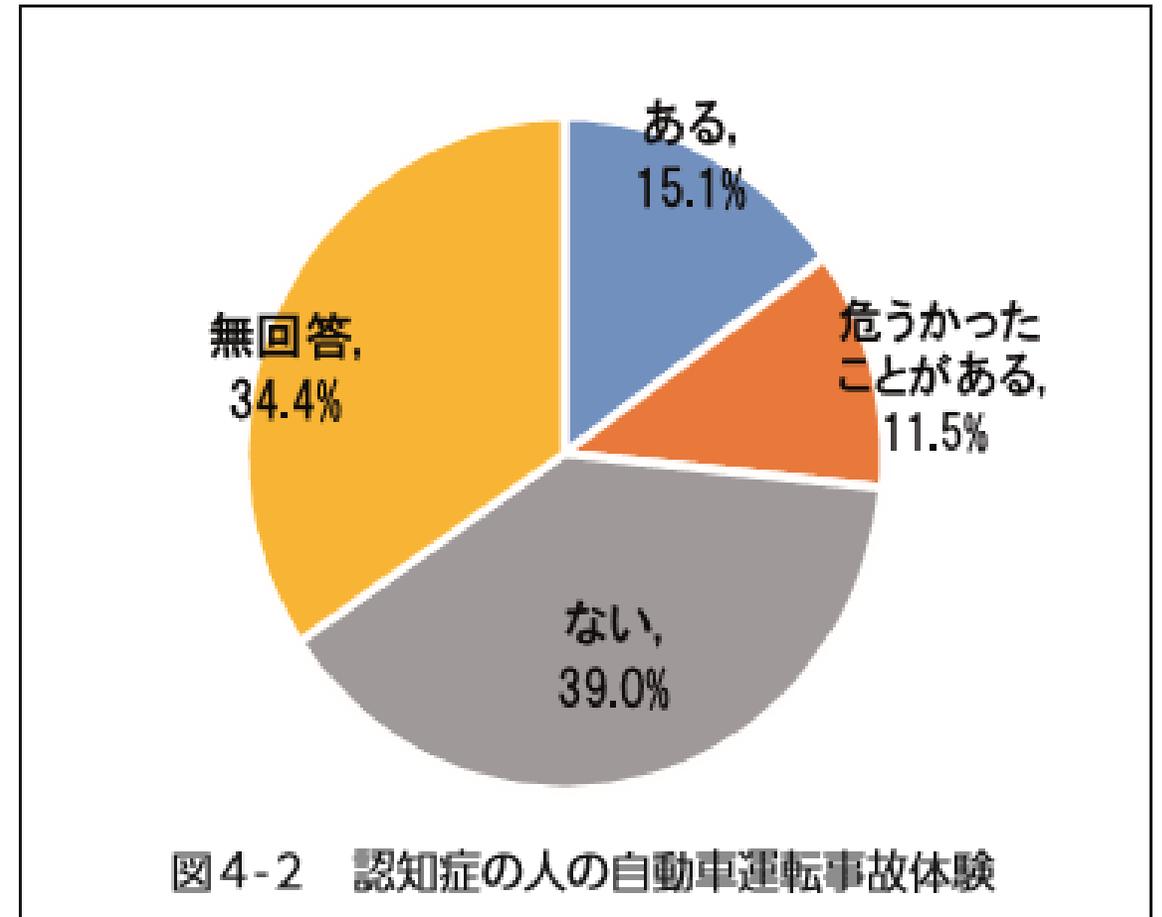
診断時点の運転免許保有状況	件数	割合 (n=549)
現在も持っている	112	20.4%
診断時持っていたが今は持っていない	226	41.2%
もともと持っていない	174	31.7%
その他	2	0.4%
無回答	35	6.4%



認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

表 4-2-1 自動車事故の体験の有無

自動車事故の体験	件数	割合
ある	83	15.1%
危うかったことがある	63	11.5%
ない	214	39.0%
無回答	189	34.4%
集計	549	



認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

表 4-2-2 自動車事故の状況

事故、事故未遂の状況	事故体験あり	危うい体験有	事故体験なし
物損事故	34	6	
追突事故	29	1	
転落事故（路肩や田畑）、 脱輪	7	2	
人身事故	4		
逆走	2	7	
信号（踏切）無視	1	11	
接触事故	1	5	
転倒事故	1	1	
行方不明	1		
道に迷う		10	2
駐車下手		5	1
車の破損		5	1
歩行者や自転車を引きそう になった		5	
ブレーキ遅れ		4	
同乗し危うさ実感		3	
接触しそうになった		2	1
スピード超過、遅延		2	
易怒性		2	
無灯火		1	
燃料切れ停止		1	
車間狭い		1	
交差点で動けなくなった		1	
右折できず		1	
飲酒運転		1	
一旦停止無視		1	
フラフラ運転		1	
駐車場所忘れ			1
運転操作間違い			1

認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

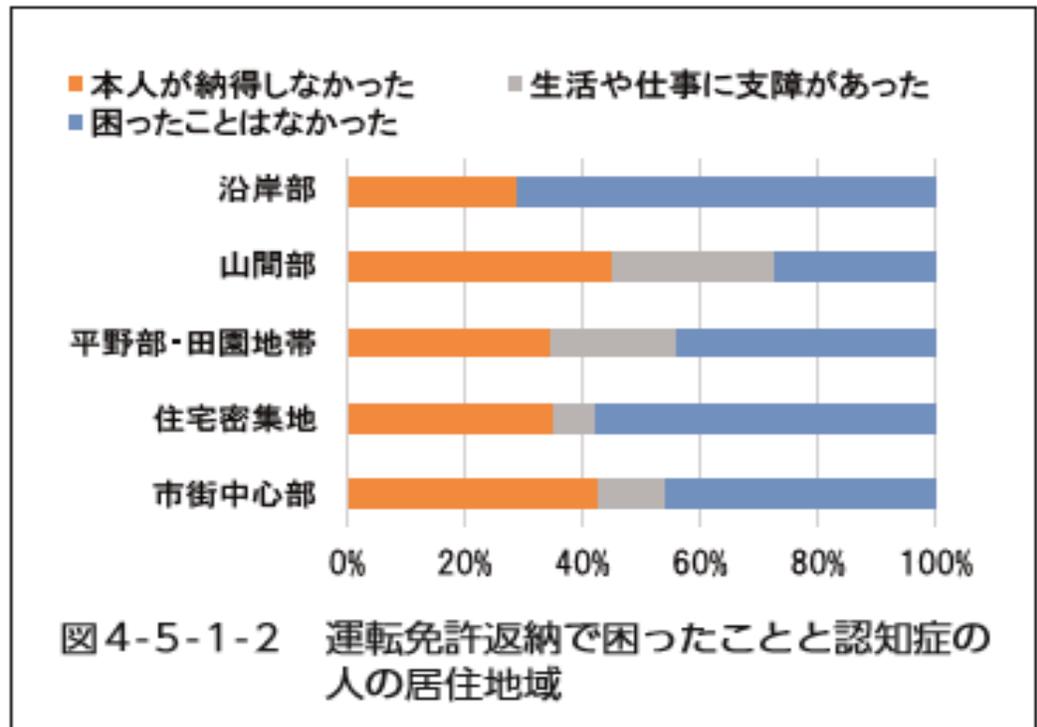
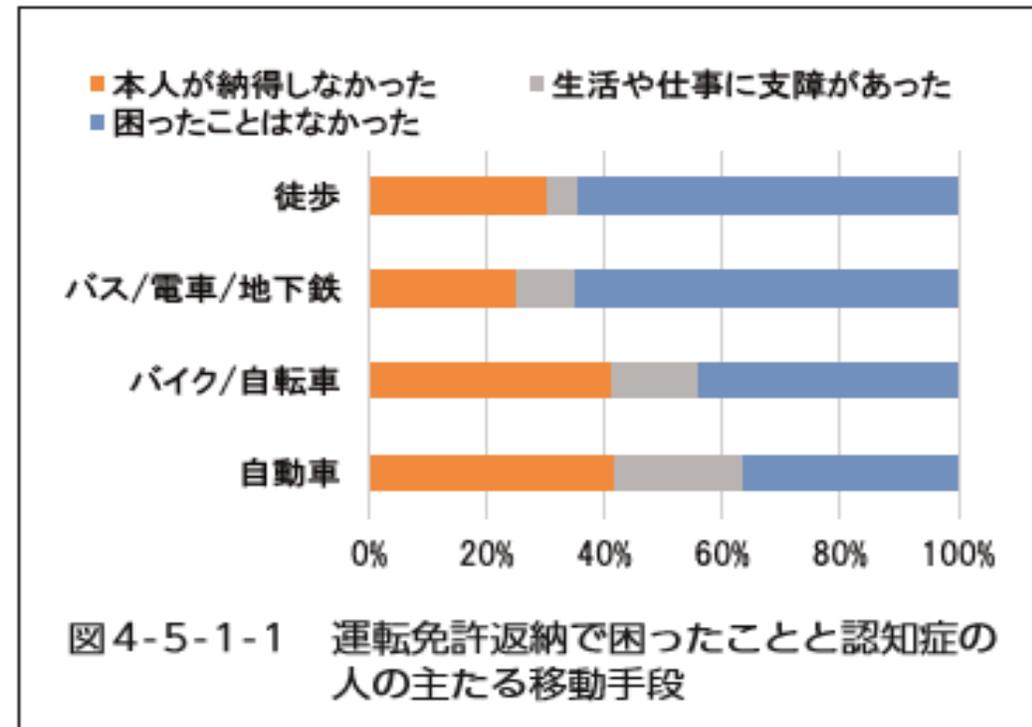
表4-3 認知症の人の運転免許返納状況（複数回答）

状況	詳細	件数	割合 (n=338)
返納した	本人が自主的に返納した	46	13.6%
	家族が本人に言って返納させた	122	36.1%
	事故を起こしたので返納させた	24	7.1%
	主治医が説得した	7	2.1%
	警察、免許センターを介して説得、更新させなかった	5	1.5%
更新できなかった	運転免許の更新時に更新できなかった	13	3.8%
本人が拒否した	返納を本人は拒否し続けた（ている）	43	12.7%
更新しなかった	本人が更新しなかった	5	1.5%
	返納しないまま運転ができなくなった	101	29.9%
	更新しなかった	19	5.6%
	本人へは言い出せず返納しなかった（更新しなかった）	11	3.3%
	免許証を隠した、失くした	3	0.9%
返納していない	免許持参も運転せず（運転しなくなった）	12	3.6%
	鍵を隠すなどして運転させないようにした	12	3.6%
	車を処分した、隠した	9	2.7%
	助手席に乗せるようにした	2	0.6%

認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

表4-5-1 運転免許返納に関し困ったこと

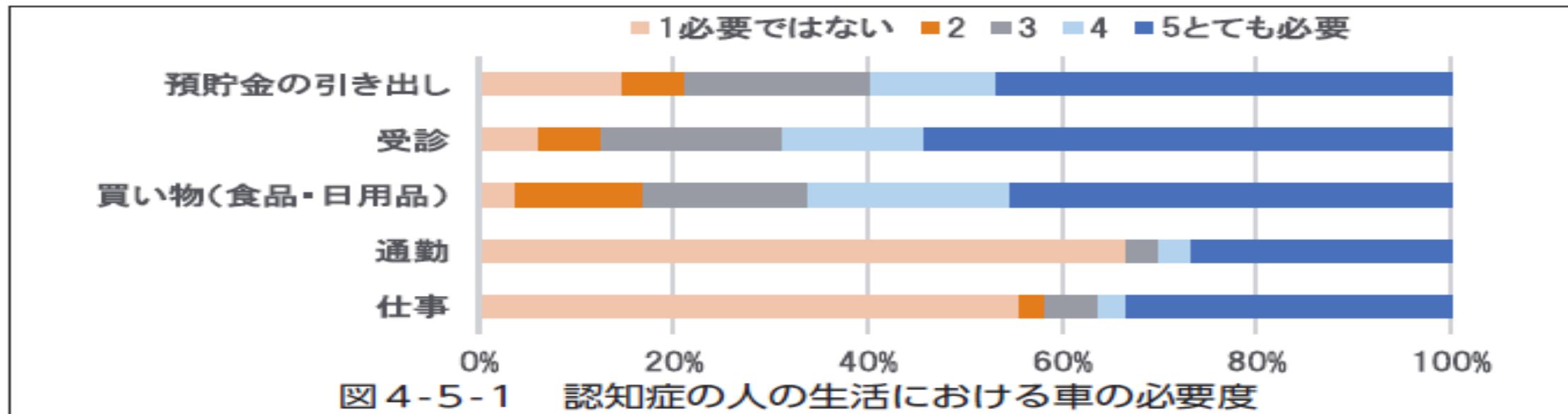
免許返納に関し困ったこと	件数	割合 (n=338)
本人が納得しなかった	103	30.5%
生活や仕事に必須であるのに、運転できないことで生活や仕事が成り立たなくなる	68	20.1%
困ったことはなかった。自分から運転を自粛し返納すると言った	138	40.8%



認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

表 4-5-3 認知症の人の生活における自動車の必要度

必要性	仕事	通勤	買い物 (食品・日用品)	受診	預貯金の 引き出し
1 必要ではない	20	20	2	3	7
2	1		7	3	3
3	2	1	9	9	9
4	1	1	11	7	6
5 とても必要	12	8	24	26	22
回答数	36	30	53	48	47
必要度 (平均値)	2.56	2.23	3.91	4.04	3.70



認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明
や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

表4-6-1 運転免許返納後の困りごと（複数回答）

免許返納後の困りごと	本人が自主返納	家族等の説得で返納	事故後に返納	全体
運転免許を返納したことを忘れ、運転しようとしてしまう	4	27	4	40
返納後に制止してもあるいは知らずに運転してしまったことがある		9	2	11
運転させないことで怒りだしたり、落ち着きがなくなった		18	5	42
運転できないことにショックを受けて、家に閉じこもりがちになった	5	21	2	41
仕事の部署（内容）を変えられた			1	4
仕事ができなくなった・仕事を解雇された			1	7
n (〈3.4.3.〉の回答)	46	122	24	549

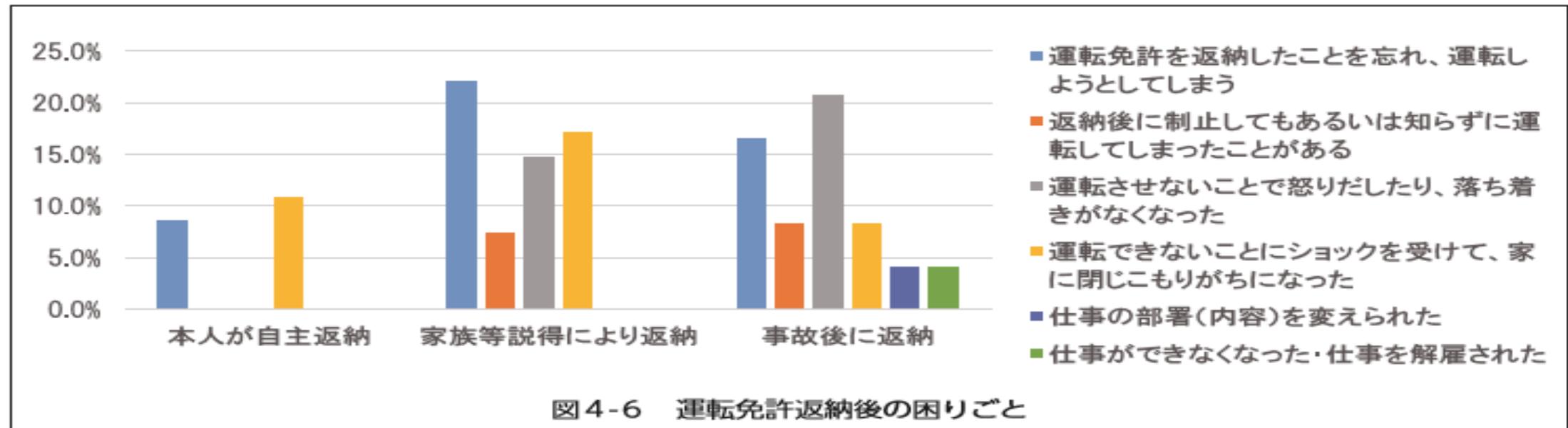


図4-6 運転免許返納後の困りごと

認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

3.4.10. 認知症の人とその家族が安心して住み慣れた場所で住み続けていくための技術開発や社会への期待

- ・この項目には549件中356件（64.8%）の自由記述があり関心の高さが伺えた。
- ・自動車運転や交通システム整備に関する自由記述の内容を質的に分類整理した結果、大分類としては【交通サービスの拡充】【環境整備】【免許制度】【自動運転について】【認知症でも生活しやすい地域づくり】【その他】があった。
- ・【自動運転について】は、『自動制御による安全装置の装着に期待』【自動運転による目的地制御運転に期待】【認知症の時機によっては運転可能な場合もある】【期待はしているが安全性に不安】【自動運転技術開発が利用できることを期待している】【(自動運転装備車の) 購入の補助を検討して欲しい】【自動運転には現状で賛成できない】【自動運転を認める条件が必要】【自動運転以外の車の機能】があった。

認知症の人と家族の会「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査報告」

技術開発への期待 抜粋

- 【自動制御による安全装置の装備に期待】
 - [アクセル、ブレーキの自動制御機能による衝突回避(14)]
 - [障害物の自動感知による衝突回避(2)]
 - [運転者認証システムによるエンジン不起動(2)]
 - [危険察知システム(2)]
 - [信号感知による自動停止機能]
 - [安全制御技術に期待(5)]
- 【自動運転による目的地制御運転に期待】

認知症の人と家族の会 代表者の声

- 自動運転に関する要望について、
運転能力が低下しても安全に運転できる自動車の開発は、認知症の人だけでなく、自家用車に頼らざるを得ない環境で生活している高齢者やその家族にとっても希望となるものです。
- 認知症があってもなくても、だれもが行きたいところに自由に迷わずに行き、楽しめる「移動の自由」が保証されるような自動運転技術の開発を期待したいです。

公益社団法人 認知症の人と家族の会の声明 20190118

「認知症の人の自動車運転で、誰もがつらい思いをしないために 社会的支援体制の整備を」

1. 運転免許自主返納・取消について、支援体制の充実を
2. 認知症の人と家族の生活の継続を保障できる交通環境の整備や支援を
3. 認知症の人の持つ能力に応じた評価ができる仕組みの確立を